

# 人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言

平成 26 年 7 月 1 日

長野市総合計画審議会

# 1 提言の趣旨

平成 22 年国勢調査結果に基づく将来人口推計によると、長野市の総人口は、今後 30 年間で約 8 万人減少し、およそ 30 万人になることが見込まれています。

しかも、その人口減少は、老年人口が増加していく一方、それ以上に年少人口及び生産年齢人口が大幅に減少していくことによって生じるものとされています。

これは、社会を支える側と支えられる側の人口構成を大きく変容させるため、社会保障制度や経済活動など、市民生活に多大な影響を及ぼす可能性があります。

そのため、これらの影響を念頭に人口減少社会を現実の問題として捉え、まちづくりを進めていく必要があることから、長野市総合計画審議会において、持続可能な地域社会の形成に必要なまちづくり（自治体経営）の方向性を考え、今後の各部局（各分野）の政策形成に向け意見をまとめ、人口減少時代に対応したまちづくりについて、提言するものです。

# 2 まとめの主な経過

日程	まとめの主な経過	事務局及び各部局	
平成 25 年度	8月28日	平成25年度 第2回 長野市総合計画審議会 【委員による意見交換①】	・人口減少の現状と要因分析 ・地域別将来人口推計
	1月22日	人口減少時代に対応したまちづくり合同勉強会 【人口減少をチャンスに変える (講師：首都大学東京大学院教授 大杉 覚氏)】	
	1月22日	平成25年度 第3回 長野市総合計画審議会 【委員による意見交換②】	・行政各分野への影響例 ・他自治体の先進事例
	2月	人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言 に対する委員意見提出	
	3月28日	市長と長野市総合計画審議会（正副会長）による 意見交換	・委員意見まとめ
平成 26 年度	4月30日	平成26年度 第1回 長野市総合計画審議会 【人口減少時代に対応したまちづくりに関する 提言(案)の検討】	
	7月1日	市長へ人口減少時代に対応したまちづくり に関する提言	

### 3 提言の視点等

#### (1) 総意見数は 338 件

総合計画審議会委員に対し、これまでの審議会での審議、合同勉強会における講演の内容等を踏まえ、人口減少時代に対応したまちづくりについて、「まちづくりの目標（将来の都市イメージやキャッチフレーズ等）」、「まちづくりの視点（都市の資源を最大限にいかし、住む人（市民）の力をまちづくりにつなげるための方向付け）」及び「視点に基づく具体的な取組」の提案をお願いしたところ、338 件の意見がありました。

#### (2) 83 項目の提言と 12 の視点

338 件の意見は、内容により分類するとともに、類似する意見を整理し、83 項目の提言としてまとめました。また、この 83 項目の提言の内容を基に 12 の視点を設定しました。

#### (3) 63 件の具体的な取組（例）

338 件の意見の中から、理想のまちのすがたを実現するための 63 件の具体的な取組（例）を抽出し、視点ごとに列挙しました。

視点別分類・整理結果

番号	視点	意見の内容	意見	集約	
				具体的取組(例)	提言(まとめ)
1	安心して暮らす	社会生活、保健福祉、介護、医療、防災・防犯	38	5	12
2	地域をつくる	都市間連携、地域間連携、行政経営	23	4	7
3	ともに支える	住民自治、世代間連携	33	6	6
4	自然を活用する	環境・エネルギー	26	5	4
5	暮らしを楽しむ	衣食住	20	3	7
6	家庭を築く	家庭生活、家族、子育て、少子化	26	8	6
7	文化を楽しむ	歴史、芸術、スポーツ、まつり、伝統	18	3	6
8	人が集う	観光、交流人口	32	5	6
9	人が育つ	学ぶ、教育	12	4	5
10	企業が育つ	働く、雇用、企業立地	37	8	9
11	まちに賑わいをつくる	都市基盤の整備、まちの拠点、交通	45	6	9
12	長野市の存在感を示す	シティプロモーション、選ばれるまち、永住	28	6	6
			338	63	83

## 視点 1

## 安心して暮らす

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 安心・安全・快適な生活が確保されている。
- 2 災害が少なく、安心して子育てができ、暮らしやすいまちづくりを進めている。
- 3 自助、共助、公助が機能的にかみ合い、子どもからお年寄りまですべての世代の人が安心して暮らしている。
- 4 健康と福祉を重視したまちづくりが進んでいる。
- 5 市民がそれぞれのライフステージにおいて健康づくりに主体的に取り組んでいる。
- 6 高齢者が健康で過ごせる住みやすいまちづくりを進めている。
- 7 高齢者が家族や地域に見守られながら安心して暮らしている。
- 8 市民は身近な場所で医療を受けている。
- 9 高度医療を受ける体制が整っている。
- 10 市内のどこからも迅速な消防・救急を受けることのできる体制が整っている。
- 11 市民が協力して、自然災害や犯罪の抑止に努めている。
- 12 消費生活に関する相談体制や啓発が徹底され、詐欺やトラブルが発生していない。

### 具体的な取組（例）

- 1 まちの便利屋さんとして、コンビニを活用する。
- 2 市民が主体的に健康づくりに取り組める環境を整える。
- 3 日常生活において、「歩く」ことを基本とする取組を実施する。
- 4 基幹病院を支援することにより、高度医療体制を維持する。
- 5 ご近所や医療福祉の専門家とのつながりを深める。

## 視点2

## 地域をつくる

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 長野圏域の市町村と協力・分担・連携している。
- 2 都市と農山村が支え合い、ともに活気があふれている。
- 3 都市内分権がさらに進み、行政と市民の役割分担が進んでいる。
- 4 行政サービスを受ける側と行政サービスを提供する側の双方が満足できるような仕組みができています。
- 5 健全な行政経営と柔軟な発想のもと、長期的な視点から計画的なまちづくりを進めている。
- 6 既存のストック（社会資本）を有効活用しながら、長寿命化を図っている。
- 7 世代間のバランスが良い都市になっている。

### 具体的な取組（例）

- 1 近隣市町村と連携し、都市機能の役割分担を進める。
- 2 中心市街地の賑わいにより税収をあげ、それを周辺地域へ還元する。
- 3 行政サービスをアウトソーシングする。
- 4 公共施設の整理、統合と職員配置の適正化を進める。

## 視点3

## ともに支える

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 お互いがお互いを思いやり、助け合っている。
- 2 収益を上げられる手法で継続可能な担い手が行政サービスを請け負っている。
- 3 一人ひとりが地域の中で活躍している。
- 4 住民が地域の魅力を知り、愛着をもって暮らしている。
- 5 みんなが地域に関心を持ち、ご近所とのつながりを大切にしている。
- 6 世代間で助け合っている。

### 具体的な取組（例）

- 1 お互いを尊重し、思いやりを持って助け合う和の精神を大切にする社会をつくる。
- 2 収益を上げられる手法で継続可能な担い手が行政サービスを請け負う仕組みをつくる。
- 3 市内外の人たちとともに働き、ともに楽しむ風土や社会をつくる。
- 4 学校で地域を愛する心を育てる教育をする。
- 5 市内の子どもたちは、農家民泊などにより、農業体験や中山間地域での生活体験をする。
- 6 高齢者が社会貢献活動や地域の子育てに関わりやすい仕組みをつくる。

## 視点 4

## 自然を活用する

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 長野の恵まれた自然環境と共生できる価値を再認識している。
- 2 中山間地域の豊かな自然や里山の良さが伝わっている。
- 3 自然とのつながりを大切にし、持続可能な環境共生社会が実現している。
- 4 エネルギーは市内で自給している。

### 具体的な取組（例）

- 1 薪の生産・流通・利用に関する総合システムを立ち上げる。
- 2 公共施設建設時は、木材を活用する。
- 3 雨水地下浸透を促進することで涵養量をあげ、自然の水循環システムを保全する。
- 4 木質燃料、小水力、太陽光などの自然エネルギーを活用する。
- 5 公共施設の太陽エネルギーの利用促進を図る。

## 視点5

## 暮らしを楽しむ

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 地域独自の食べ物や新鮮な農産物など、豊かな食文化を楽しんでいる。
- 2 地産地消と食料の自給が進んでいる。
- 3 お金のかからない生活を楽しんでいる。
- 4 「適度に田舎で適度に都会」な長野市の魅力が伝わっている。
- 5 暮らしやすさを追求した、住みやすいまちづくりを進めている。
- 6 全ての世代が、いきいきと学び、働き、交流し、生きがいを感じながら暮らしている。
- 7 20年後、30年後に市民がそれぞれの地域で元気に楽しく暮らしている。

### 具体的な取組（例）

- 1 有機栽培の米、野菜、雑穀やジビエなどの需要を開拓する。
- 2 中山間地域の農産物や炭、薪など山の産物を販売する特産品販売所を設ける。
- 3 地産地消を進め、野菜・果樹の自家栽培を促進する。



## 視点6

## 家庭を築く

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 家庭を築くこと、子供を産み、育てることを応援するまちになっている。
- 2 結婚を望む人が結婚している。
- 3 安心して、産み、育て、働ける、子育てにやさしいまちになっている。
- 4 長野市の子育て環境が幼児教育のモデルになっている。
- 5 出生数が増えている。
- 6 若者が集い、交流を楽しむ、若者にやさしいまちになっている。

### 具体的な取組（例）

- 1 縁結び（出会い・結婚）から出産、子育てまで含めた少子化対策専門のホームページを作成する。
- 2 市独自の婚活パーティー（婚活会議）を行う。
- 3 認定こども園と幼稚園、保育園を活用して、幼児教育を充実させる。
- 4 地域の子育てサロンを充実させ、“ママ友”の輪を広げる。
- 5 企業と協力し、子育て中の親の就業時間を短くする。
- 6 給食のアレルギーへの対応に力を入れる。
- 7 子育て世代への大幅な減税を行う。
- 8 市民に対して高齢出産に対するリスクの認識を広げる。

## 視点7

## 文化を楽しむ

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 スポーツと文化、歴史が大切にされている。
- 2 市民は各地域の歴史・文化・自然に関心を持ち、長野らしさが大切にされている。
- 3 市民は文化芸術に親しみ、音楽や芸術などの分野で活躍する人材を輩出している。
- 4 競技者の拡大・支援に力を入れ、オリンピックや国際大会に出場する選手を輩出している。
- 5 スポーツの試合や大会が市内で開催され、市民は見て、応援するスポーツを楽しんでいる。
- 6 イベントや各地区のお祭りなどが賑やかに行われている。

### 具体的な取組（例）

- 1 まちのシンボルである善光寺の世界遺産登録を目指す。
- 2 プロスポーツを活用したまちづくりに取り組む。
- 3 四季ごと、月ごとのイベントやオリンピックの開催時期に合わせた4年に1度の祭典をつくる。

## 視点 8

## 人が集う

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 寄って滞在したくなる地域になっている。
- 2 オリンピック開催都市にふさわしい、競技大会、イベント、交流活動などを通じ、世界から人が集まっている。
- 3 人が集まる、元気な街になっている。
- 4 オリンピック開催都市“NAGANO”の誇りと文化が、世界のモデルになっている。
- 5 高級でなくとも「上質で快適」な長野らしさ（長野ブランド）が、人々を惹きつけている。
- 6 市民みんなにおもてなしの心が育ち、訪れた人にありがとうの気持ちが伝わっている。

### 具体的な取組（例）

- 1 滞在したくなるまちを目指し、宿泊施設を充実させる。
- 2 観光客と地域住民の接点もてるイベントや行事を開催する。
- 3 山岳高原という他所には真似できない長野ならではの観光資源を活かす。
- 4 遊休農地を活かした観光農園、体験農園、豆腐や味噌づくり体験等を組み合わせた新しい観光のあり方を探求する。
- 5 町並みガイドの育成、あいさつ運動の展開、長野市美化運動など、観光客へのおもてなしを充実させる。

## 視点9

## 人が育つ

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 長野市で活躍する人材を育成するため、特色ある教育に力を入れている。
- 2 大学など、高等教育機関が充実している。
- 3 長野市で学ぼうとする若者が大勢いる。
- 4 挑戦する人材が長野市で育っている。
- 5 長野留学が流行っている。

### 具体的な取組（例）

- 1 基礎教育（義務教育）を大切にし、人材育成を推進する。
- 2 4年制大学を設置する。
- 3 高度おもてなし人教育など、長野市ならではの特色ある教育を行う。
- 4 長野市に縁のない人たちに、人生の節目・転機で留学にきてもらう。

## 視点 10

## 企業が育つ

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 誰もが働きやすい環境になっている。
- 2 元気な高齢者が社会の様々な場所で活躍している。
- 3 長野市で働きたいと思う人が増え、雇用の場が確保されている。
- 4 地域の特性を活かした産業が育ち、新たな雇用が生まれている。
- 5 農産物や森林資源を活かした長野ならではの産業が地域の柱になっている。
- 6 教育機関や政府、民間企業の研究機関と連携し、知的産業が集積している。
- 7 食糧生産や医療、介護、エネルギー（木質燃料、小水力、太陽光など）は地域で賄っている。
- 8 市内で栽培された農作物が消費者に選ばれ、農業生産者の利益につながっている。
- 9 人・物・金が地域内で循環する環境になっている。

### 具体的な取組（例）

- 1 I・Uターン者への就職斡旋や補助金支給を行う。
- 2 リタイア層の活力を地域で活かすために、生きがい就労を創設する。
- 3 中山間地域に小水力や太陽光発電施設を設置し、自然エネルギーの利活用を進め、地域における雇用機会をつくる。
- 4 農産物や森林資源など地域の特性を活かした地場産業を育成する。
- 5 山村に食品加工センターや薪炭の製造施設をつくる。
- 6 アニメコンテンツ産業など新産業を創造・育成し、市内に集積させる。
- 7 市内に企業を誘致するため、助成金の支給や法人税の引き下げなどを行う。
- 8 環境にやさしい工場を誘致する。

## 視点 11

## まちに賑わいをつくる

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 100年後のまちの形を変えることを目標に都市整備が進められている。
- 2 緑の広がる環境共生型のまちが形成されている。
- 3 ユニバーサルデザインに基づく都市空間が整備されている。
- 4 まちなみに計画性（独自性、一貫性）をもたせ、魅力的で緑豊かな景観を形成している。
- 5 世界に誇る日本一の門前町になっている。
- 6 地域の代表的な施設に拠点性を持たせるまちづくりが進められている。
- 7 市内の地区ごとに地域の拠点化が進み、日常生活圏が形成されている。
- 8 食事や買い物を楽しむ人でまちが賑わっている。
- 9 市内の拠点を結ぶ次世代交通が整備され、市民や観光客が快適に移動している。

### 具体的な取組（例）

- 1 中心市街地を見直し、郊外に出ていった人たちを呼び戻す。
- 2 門前町の良さを駅から善光寺までのみちのりで味わえる工夫をする。
- 3 市内に大型ショッピングセンターやアウトレットを誘致する。
- 4 都市の核、地域の核、生活の核を公共交通で結び、車を使わない社会を構築する。
- 5 市内の観光拠点を結ぶ交通網を整備する。
- 6 長野～松本間の鉄道の利便性を高める。

## 視点 12

## 長野市の存在感を示す

### 理想のまちのすがた（30年後のまちの様子）

- 1 市民みんなが長野市を誇らしく思い、その魅力を伝える広報マンとなって、シティプロモーションを推進している。
- 2 長野市の魅力を伝える仕組みができている。
- 3 長野市の良さを伝える媒体を有効に活用している。
- 4 「適度に田舎で適度に都会」な長野市の魅力をアピールする。
- 5 長野ブランドが世界に認められている。
- 6 長野市の魅力を知っている人たちが永住の地として選んでいる。

### 具体的な取組（例）

- 1 首都圏在住者の視点で長野市の魅力をPRする。
- 2 首都圏に長野市の良さをPRするアンテナショップなどを設置する。
- 3 長野市ファンを増やすために、首都圏交流事業を展開する。
- 4 地域ならではの文化や人間味溢れる魅力を感じてもらおう。
- 5 地域外からの二地域居住を促進する。
- 6 一度、長野市に住んだ人に、永住の地として選んでもらう（Nターン）。

# 人口減少時代に対応したまちづくり

## < 長野市総合計画審議会委員意見等一覧表 >

### 視点別分類・整理結果

番号	視点	意見の内容	意見	集約	提言 (まとめ)
				具体的取組(例)	
1	<b>安心して暮らす</b>	社会生活、保健福祉、介護、医療、防災・防犯	38	5	12
2	<b>地域をつくる</b>	都市間連携、地域間連携、行政経営	23	4	7
3	<b>ともに支える</b>	住民自治、世代間連携	33	6	6
4	<b>自然を活用する</b>	環境・エネルギー	26	5	4
5	<b>暮らしを楽しむ</b>	衣食住	20	3	7
6	<b>家庭を築く</b>	家庭生活、家族、子育て、少子化	26	8	6
7	<b>文化を楽しむ</b>	歴史、芸術、スポーツ、まつり、伝統	18	3	6
8	<b>人が集う</b>	観光、交流人口	32	5	6
9	<b>人が育つ</b>	学ぶ、教育	12	4	5
10	<b>企業が育つ</b>	働く、雇用、企業立地	37	8	9
11	<b>まちに賑わいをつくる</b>	都市基盤の整備、まちの拠点、交通	45	6	9
12	<b>長野市の存在感を示す</b>	シティプロモーション、選ばれるまち、永住	28	6	6
			338	63	83



番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
1	安心して暮らす	快適な生活への願いを実現する(子育て、健康、住宅、安全、交通)。	安心・安全・快適な生活が確保されている。	1
2	安心して暮らす	安心、安全なまちづくりを進める。		2
3	安心して暮らす	安心・安全なまち		3
4	安心して暮らす	コンビニがまちの便利屋さんになる。		4
5	安心して暮らす	災害が少なく、安心して子育てができ、暮らしやすいまち	災害が少なく、安心して子育てができ、暮らしやすいまちづくりを進めている。	5
6	安心して暮らす	自助、共助、公助が機能的にかみ合い、子育てから老後まで安心して暮らせるまち	自助、共助、公助が機能的にかみ合い、子どもからお年寄りまですべての世代の人が安心して暮らしている。	6
7	安心して暮らす	健康と福祉を重視した、活力ある安心・安全なまち	健康と福祉を重視したまちづくりが進んでいる。	7
8	安心して暮らす	保健・医療と連携した健康づくりの総合的取り組み	市民がそれぞれのライフステージにおいて健康づくりに主体的に取り組んでいる。	8
9	安心して暮らす	子育ては“NAGANO”、健康は“NAGANO”、住むなら“NAGANO”(オリンピックを意識してNAGANOとした)		9
10	安心して暮らす	市民がそれぞれのライフステージにおいて健康づくりに主体的に取り組む、行政がサポートするまち		10
11	安心して暮らす	長野なら健康で生きていけます。		11
12	安心して暮らす	「歩く」を基本とする「健幸(幸せに健康で長く生きる)」なまちになっている。	12	
13	安心して暮らす	日常生活で歩くことの大切さを体にしみこませ、市民が無意識のうちに健康づくりを持続できる環境になっている。	13	
14	安心して暮らす	高齢者も健康で過ごせる住みやすいまちづくり	高齢者が健康で過ごせる住みやすいまちづくりを進めている。	14
15	安心して暮らす	お年寄りになっても健康で充実した毎日を…公園、運動、高齢者の生きがいづくり、医療の充実	高齢者が家族や地域に見守られながら安心して暮らしている。	15
16	安心して暮らす	「いつまでも在宅で安心して生活できるまち」、「いつまでも元気で活躍できるまち」になっている。		16
17	安心して暮らす	高齢者が安全に過ごすことができる環境を整備する。		17
18	安心して暮らす	単身で暮らす高齢者が安心して生活できる。		18
19	安心して暮らす	買い物難民ゼロ、特別養護老人ホーム入所待機者ゼロ、孤独死ゼロのまちになっている。	19	
20	安心して暮らす	市内全域で「高齢者などの買い物代行」が実施されている。	20	
21	安心して暮らす	過疎地域に居住する高齢者の移動手段が確保されている。	21	
22	安心して暮らす	在宅医療を推進し、高齢になっても住みなれた地域で暮らすことができている。	22	
23	安心して暮らす	市が医師会等と連携し、多職種で面的に日常サービスの提供ができる地域包括ケアシステムを整備されている。	23	
24	安心して暮らす	シニア世代は年金が減っている。	24	
25	安心して暮らす	基幹病院への支援	市民は身近な場所で医療を受けている。	25
26	安心して暮らす	救急、消防体制は完備されている。	26	
27	安心して暮らす	高度医療体制(市民病院の水準維持)を維持する。	高度医療を受ける体制が整っている。	27
28	安心して暮らす	圏域で利用できる福祉、医療の水準を確保する。	28	
29	安心して暮らす	何かあった時に、すぐかけつけることができる、ご近所・医療福祉の専門家とのつながりを深める。	市内のどこからも迅速な消防・救急を受けることのできる体制ができている。	29
30	安心して暮らす	患者のタライ回しも無い。	30	
31	安心して暮らす	若い人が地域防災組織に参加するきっかけや、関わりやすい仕組みづくりをする。	市民が協力して、自然災害や犯罪の抑止に努めている。	31
32	安心して暮らす	地域ごとの救助・救援体制づくりを進める。	32	
33	安心して暮らす	長野市は地震、台風等の災害が少ない土地である。	33	
34	安心して暮らす	災害の場合の迅速な支援を図る(長野市は周辺市町村に比べて除雪対応が遅いので、不足の場合は援助の要請を行う)。	34	
35	安心して暮らす	台風などの自然災害に見舞われることが少ない点をPR	35	
36	安心して暮らす	災害・除雪対策	36	
37	安心して暮らす	除雪対策に対する備えがある点をアピールする。	37	
38	安心して暮らす	消費生活に関する相談体制や啓発がしっかりしている。	消費生活に関する相談体制や啓発が徹底され、詐欺やトラブルが発生していない。	38

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
39	地域をつくる	周辺市町村との連携促進による広域連携	長野圏域の市町村と協力・分担・連携している。	39
40	地域をつくる	近隣地町村と連携し、都市機能の役割分担をすることで市民サービスの向上と効率的な行政運営を図っている。		40
41	地域をつくる	広域連携		41
42	地域をつくる	都市と農山村が支え合う都市	都市と農山村が支え合い、ともに活気があふれている。	42
43	地域をつくる	中心市街地と中山間地域が連携した活気あふれる街、長野市		43
44	地域をつくる	広大な中山間地を抱えた長野市では、周辺地域の人口減少も重大な課題となっている。		44
45	地域をつくる	中山間地域は高齢化が進み、振興施策が早急に必要である。		45
46	地域をつくる	中心市街地の賑わいにより税収をあげ、それを周辺地域へ還元されている。		46
47	地域をつくる	これからは地縁型のコミュニティからテーマ型のコミュニティのほう人が集まる。		47
48	地域をつくる	都市内分権にとりくんでいる。		都市内分権がさらに進み、行政と市民の役割分担が進んでいる。
49	地域をつくる	長野市は、自治組織がしっかりしており、自治組織は、行政に協力的である。	49	
50	地域をつくる	行政サービスを受ける側と行政サービスを提供する側の双方が満足できるような仕組みを作る。	行政サービスを受ける側と行政サービスを提供する側の双方が満足できるような仕組みができている。	
51	地域をつくる	行政サービスを提供する側には定年退職後のシニア世代と30～40代の世代が積極的に関わられる制度が必要である。		51
52	地域をつくる	行政サービスを提供する世代は、自らが行政サービスを受ける側になるということである。		52
53	地域をつくる	行政サービスをアウトソーシングする。		53
54	地域をつくる	税収減により、行政サービスが質・量共に大幅な低下していくことが予想される。		54
55	地域をつくる	健全な行政経営		健全な行政経営と柔軟な発想のもと、長期的な視点から計画的なまちづくりを進めている。
56	地域をつくる	財政の健全な街	56	
57	地域をつくる	行政組織の効率化が進んでいる。	57	
58	地域をつくる	公共施設の整理、統合と職員配置の適正化が進められている。	58	
59	地域をつくる	中山間地域では、公共施設の管理権限が支所長に移管されている。	59	
60	地域をつくる	既存のストック(社会資本)を有効活用し、施設等の長寿命化が図られている。	既存のストック(社会資本)を有効活用しながら、長寿命化を図っている。	60
61	地域をつくる	人口減少、特に生産年齢人口の急激な減少とそれに伴う税収の減少が最も大きな問題である。		世代間のバランスが良い都市になっている。

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号	
62	ともに支える	『人と人が助け合うお互いさまのまち ながの』	お互いがお互いを思いやり、助け合っている。	62	
63	ともに支える	「困った時はお互いさま」の仕組みが人口減少社会では必要である。		63	
64	ともに支える	人と人の繋がりが見える町にする。		64	
65	ともに支える	お互いを尊重し、思いやりを持って助け合う和の精神を大切にする。		65	
66	ともに支える	情報、バーチャルタウンでない、人のぬくもりが感じられるまちリアルタウンを目指す。		66	
67	ともに支える	収益を上げられる手法や継続可能な担い手に行政サービスを請け負ってもらう必要がある。		収益を上げられる手法や継続可能な担い手が行政サービスを請け負っている。	67
68	ともに支える	行政・事業者・住民などによる連携した地域づくり(協働)	68		
69	ともに支える	市民、事業者、行政の役割を明確にして連携を図る。	69		
70	ともに支える	行政・事業者・住民などが連携することで、誰もが主体的にまちづくりに取り組める仕組みをつくる。	70		
71	ともに支える	地域のさまざまな主体の連携	71		
72	ともに支える	まちづくりの担い手が無償(ボランティア)で行政に代わって事業を継続していくことには限界がある。	72		
73	ともに支える	長い期間、無償でまちづくりのお手伝いを期待するには厳しい社会環境にある。	73		
74	ともに支える	行政サービスの低下により困っている世代が、他の分野のサービスを提供することが必要である。	74		
75	ともに支える	市民と行政の協働によるまちづくり	75		
76	ともに支える	まちづくりは、市民の主体的参加と行政の協働により推進されるものである。	76		
77	ともに支える	住民自治協議会の活動と行政のサポートのあり方が重要である。	77		
78	ともに支える	ともに築く協働のまちづくり	78		
79	ともに支える	市内外の人たちとともに働き、ともに楽しむ風土があれば、地域がバナンスが機能して豊かな地域コモンズ(共同体)が成立する。	一人ひとりが地域の中で活躍している。		79
80	ともに支える	街も山も、人の交流が活発で賑やかである。			80
81	ともに支える	市内外の人々の交流を楽しむ風土があれば、持続性の高い環境共生都市になる。			81
82	ともに支える	住民一人ひとりが地域の魅力を認識し、愛着をもって生活できる持続可能なまちづくり	住民が地域の魅力を知り、愛着をもって暮らしている。		82
83	ともに支える	誇れるまちづくりを進める。			83
84	ともに支える	学校で、地域を愛する心を育てる教育をする。			84
85	ともに支える	地域との結びつきが強い人が増える社会をつくる。	みんなが地域に関心を持ち、ご近所とのつながりを大切にしている。	85	
86	ともに支える	若い人が地域コミュニティに参加するきっかけや、関わりやすい仕組みづくりをする。		86	
87	ともに支える	地域のつながりを大切にする。		87	
88	ともに支える	長野市は年齢を問わず、お互いがお互いをおもいやり、困った時にはお互いに助け合っていけるまちづくりを目指す。	世代間で助け合っている。	88	
89	ともに支える	シニア世代は高齢者福祉の受け手であり、30～40代は子育て世代でもある。		89	
90	ともに支える	行政サービスの低下を補うために①定年退職後のいわゆるシニア世代と②30～40世代の社会参加が不可欠である。		90	
91	ともに支える	「①定年退職者後のシニア世代」と「②30～40代の子育て世代」がいきいきと社会参加出来るまちづくり		91	
92	ともに支える	市内の子どもたちが農家民泊などにより農業体験や中山間地域での生活体験をしている。		92	
93	ともに支える	ボランティアなど社会貢献活動に参加する高齢者が大勢いる。		93	
94	ともに支える	高齢者が地域で子どもを育てている。		94	

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
95	自然を活用する	自然環境と共生することが、いかに価値あることか(長野だからできるという点)を再認識する。	長野の恵まれた自然環境と共生できる価値を再認識している。	95
96	自然を活用する	環境との共生の価値観の再認識		96
97	自然を活用する	自然環境と共生することについて、有識者による講演会やワークショップを行う。		97
98	自然を活用する	豊かな自然に恵まれていて、それは「四季爛漫」のようです。		98
99	自然を活用する	四季の変化に恵まれている。		99
100	自然を活用する	長野市は日本の原風景とも言える美しい農山村に囲まれている。		100
101	自然を活用する	良好な環境に恵まれた生活しやすい適当な規模の中核都市である。		101
102	自然を活用する	まちなかにも緑豊かなランドスケープの形成を促進する。		102
103	自然を活用する	環境共生型住宅開発		103
104	自然を活用する	豊かな自然があり、貨幣価値では評価できない住民の暖かい人間関係に支えられた空間が中山間地域にある。		中山間地域の豊かな自然や里山の良さが伝わっている。
105	自然を活用する	環境にやさしい取組を行っているアピールを市内外に行う。	105	
106	自然を活用する	持続可能な環境共生社会実現する。	自然とのつながりを大切にし、持続可能な環境共生社会が実現している。	106
107	自然を活用する	“ながの”は2009年7月のラクイラサミットでのG8申し合わせを遵守する。		107
108	自然を活用する	2050年までに自然エネルギーによる、エネルギー自給率100%の県都“ながの”を実現する。	エネルギーは市内で自給している。	108
109	自然を活用する	自然を守るだけでなく、利用してエネルギーを得る。		109
110	自然を活用する	長野県の県都“ながの”は合併によって市域の3/4が自然エネルギーの宝庫、中山間地域になった。		110
112	自然を活用する	食料やエネルギーの地域的自給が必要である。		112
113	自然を活用する	自然エネルギーの利活用によって生まれる仕事に従事して、中山間地域での環境共生生活を楽しむ若者たちを募集する。		113
114	自然を活用する	薪の生産・流通・利用に関する総合システムを立ち上げる。		114
115	自然を活用する	公共施設建設時は、木材をたくさん使うようにする。		115
116	自然を活用する	雨水地下浸透を促進することで涵養量をあげ、自然の水循環システムを保全する。		116
111	自然を活用する	“ながの”は市域に潜在する自然エネルギー(木質燃料、小水力、太陽光など)を活用する。		111
117	自然を活用する	公共施設の太陽エネルギー(太陽熱暖房等)の利用促進を図る。		117
118	自然を活用する	太陽エネルギー、雨水地下浸透、野菜・果樹の自家栽培などの利用促進	118	
119	自然を活用する	近年は環境問題・エネルギー問題に着目する人が多い。	119	
120	自然を活用する	再資源化の取組をさらに進める。	120	

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
121	暮らしを楽しむ	信州そばやおやき、新鮮な農産物など、豊かな食文化も長野の魅力のひとつである。	地域独自の食べ物や新鮮な農産物など、豊かな食文化を楽しんでいる。	121
122	暮らしを楽しむ	周辺地域のそば、伝統食レシピを提供する田舎レストランなどもいいと思う。		122
123	暮らしを楽しむ	有機栽培の米や野菜、雑穀なども今の健康志向に合致して需要が開拓できる。		123
124	暮らしを楽しむ	東京では、雑穀レストランなどが若い女性の趣向に合致し、繁盛している。		124
125	暮らしを楽しむ	農山村の産物に魅力を感じる人を増やす。		125
126	暮らしを楽しむ	和食が世界遺産(ユネスコ無形文化遺産)に指定されたことから、善光寺の精進料理で新しい食文化を考案する。		126
127	暮らしを楽しむ	市街地の空き店舗を利用して、中山間地域の農産物や炭、薪など山の産物を販売する特産品販売所を設けてはどうか。		127
128	暮らしを楽しむ	ジビエ加工施設の設置により、捕獲から加工までの道筋が出来た。		128
129	暮らしを楽しむ	野菜・果樹の自家栽培などの利用を促進する。	地産地消と食料の自給が進んでいる。	129
130	暮らしを楽しむ	地産地消と食育の取組みを進める。		130
131	暮らしを楽しむ	私たちは高度経済成長の中で物質的豊かさを享受する生活に慣れ親しんできた。	お金のかからない生活を楽しんでいる。	131
132	暮らしを楽しむ	経済成長は自然や環境破壊、経済格差といったマイナス面も生んだ。		132
133	暮らしを楽しむ	お金のかからない生活を楽しむ。		133
134	暮らしを楽しむ	長野の魅力は「適度に田舎で適度に都会」な点	「適度に田舎で適度に都会」な長野市の魅力が伝わっている。	134
135	暮らしを楽しむ	暮らしやすさを追求した、住みやすい街	暮らしやすさを追求した、住みやすいまちづくりを進めている。	135
136	暮らしを楽しむ	広い中山間地、緑、災害が少ない安全な街、農産物(リンゴ、桃等)など、長野ならではの活かし。		136
137	暮らしを楽しむ	一人ひとりが生涯にわたり、いきいきと暮らす元気なまち”ながの”	全ての世代が、いきいきと学び、働き、交流し、生きがいを感じながら暮らしている。	137
138	暮らしを楽しむ	市民の暮らしぶりに注目し、一人ひとりが生涯にわたっていきいきと暮らせるまちの姿をイメージする。		138
139	暮らしを楽しむ	20年後、30年後に市民がそれぞれの地域で元気に楽しく暮らしている。	20年後、30年後に市民がそれぞれの地域で元気に楽しく暮らしている。	139
140	暮らしを楽しむ	幸せの要素として、仕事のやりがい、自然の豊かさ、信頼できる仲間、食べ物のおいしさなどの組み合わせが重要である。		140

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
141	家庭を築く	若者が定住し、安心して子育てや教育ができるサポート体制	家庭を築くこと、子供を産み、育てることを応援するまちになっている。	141
142	家庭を築く	縁結び(出会い、結婚)から出産、子育てまで含めた、少子化対策専門のホームページを作成する。	結婚を望む人が結婚している。	142
143	家庭を築く	市独自の婚活パーティー(婚活会議)を行う。		143
144	家庭を築く	婚活パーティーは飲食店の主催が多いが、アパレルや美容院等での開催も支援する。		144
145	家庭を築く	結婚率を上げるために、市民主催の婚活パーティーに補助金を出す。		145
146	家庭を築く	安心して、産み、育て、働けます。		安心して、産み、育て、働ける、子育てにやさしいまちになっている。
147	家庭を築く	教育・子育てにやさしいまちづくり	長野市の子育て環境が幼児教育のモデルになっている。	147
148	家庭を築く	保育園待機児童ゼロ、一定数の産婦人科医の存在をアピール		148
149	家庭を築く	幼児教育のモデルを長野市から発信する。		149
150	家庭を築く	認定こども園と幼稚園、保育園を活用して、幼児教育を充実する。		150
151	家庭を築く	幼稚園・保育園・児童館への支援		151
152	家庭を築く	首都圏で問題となっている保育園待機児童が長野市はゼロ		152
153	家庭を築く	待機児童も無い。		153
154	家庭を築く	地域の子育てサロンを充実させて、“ママ友”の輪を広げる。		154
155	家庭を築く	子どもが低学年のうち、親の就業時間を、遅くとも17時までとするなど、企業にも協力していただく。		155
156	家庭を築く	給食のアレルギーへの対応が進んでいる。		156
157	家庭を築く	子育て世代、特に3人以上の子供を育てている世帯に対し、大幅な減税を行う。		157
158	家庭を築く	出生数を増やす。		出生数が増えている。
159	家庭を築く	専門家によるセミナーなどを開催することで、市民に対して高齢出産に対するリスクの認識を広げる。	若者が集い、交流を楽しむ、若者にやさしいまちになっている。	159
160	家庭を築く	出産率を向上させるために、不妊治療や高齢出産者、卵子の冷凍保存等に対する独自の補助金支援を行う。		160
161	家庭を築く	結婚・出産率を向上させるために、市をあげて卵活・婚活を支援		161
162	家庭を築く	産婦人科医が極端に少ないという田舎特有の問題もない点をよりアピールする。		162
163	家庭を築く	若者にやさしいまちづくり		163
164	家庭を築く	若者が生き甲斐を感じる町、長野	164	
165	家庭を築く	若者が活躍する、活力あふれる街	165	
166	家庭を築く	若者が希望を持って働き、生活出来る条件を整えることが必要である。	166	

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号	
167	文化を楽しむ	善光寺平に結ばれる、スポーツと文化、教育と歴史と緑の、人と地域がきらめくまち“NAGANO”	スポーツと文化、教育と歴史と緑が大切にされている。	167	
168	文化を楽しむ	長野市スポーツ推進計画の実施と環境の整備		168	
169	文化を楽しむ	市民が各地域の歴史・文化・自然を知る。	市民は各地域の歴史・文化・自然に関心を持ち、長野らしさが大切にされている。	169	
170	文化を楽しむ	善光寺はまちのシンボルとして大切にしていく。		170	
171	文化を楽しむ	善光寺の世界遺産登録を継続して目指す。		171	
172	文化を楽しむ	歴史ある門前町		172	
173	文化を楽しむ	合併により、多様な文化や行事、お祭り等が地域に点在している。		173	
174	文化を楽しむ	音楽、芸術などの分野で活躍する人材を輩出している。		市民は文化芸術に親しみ、音楽や芸術などの分野で活躍する人材を輩出している。	174
175	文化を楽しむ	仕事やスポーツなどの第一線で活躍する高齢者がいる。			175
176	文化を楽しむ	オリンピックや国際大会に出場する選手を輩出している。	競技者の拡大・支援に力を入れ、オリンピックや国際大会に出場する選手を輩出している。	176	
177	文化を楽しむ	AC長野パルセイロのスクール、ユースなどから日本代表選手を輩出している。		177	
178	文化を楽しむ	プロスポーツを活用したまちづくりに取り組んでいる。	スポーツの試合や大会が市内で開催され、市民は見て、応援するスポーツを楽しんでいる。	178	
179	文化を楽しむ	四季ごと、月ごとにイベントがあるようなまちづくり	イベントや各地区のお祭りなどが賑やかに行われている。	179	
180	文化を楽しむ	4年に一度のオリンピックがあるので、それに合わせて祭典等をつくる(びんずる並に)。		180	
181	文化を楽しむ	各地区のお祭りなどの行事が賑やかに行われている。		181	
182	文化を楽しむ	文化⇒伝統行事の継承(御開帳、真田10万石祭り、えびす講花火、長野びんずる)、新たな文化の創造(サッカー)		182	
183	文化を楽しむ	歴史⇒善光寺門前町、松代城下町、長野冬季オリンピックのレガシー(スケート、スキー、アイスホッケー)		183	
184	文化を楽しむ	文化の醸成やイベントの開催を盛んにする。		184	

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号	
185	人が集う	～寄ってみなはれ～しあわせきらめくまち「ながの」	寄って滞在したくなる地域になっている。	185	
186	人が集う	滞在型観光地づくり		186	
187	人が集う	滞在型観光地づくりを促した上で、観光客と地域住民の接点をもてるまちづくり		187	
188	人が集う	滞在したくなるまちを目指し、宿泊施設の充実を図る。		188	
189	人が集う	滞在型観光地づくりを促した上で、観光客と地域住民の接点をもてるイベントや行事を開催・アピールする。		189	
190	人が集う	周辺市町村と広域連携を図ることで、互いの土地を訪れた観光客の交流人口を促進する。		190	
191	人が集う	官民共同によるワークショップの開催、観光地づくりの取組を進める。		191	
192	人が集う	観光カリスマによる観光地づくりの講演会やワークショップ、ノウハウの伝授などを開催する。		192	
193	人が集う	地域住民に観光地としての長野の魅力について理解を促進する。		193	
194	人が集う	今こそ生かそう、「長野らしさ」を		194	
195	人が集う	長野市の強み・特長(他市にないもの)を活かす(善光寺、オリンピック施設、歴史、信州教育など)。		195	
196	人が集う	日本でも特に恵まれた環境を活かした観光開発に力を注ぐ。		196	
197	人が集う	山岳高原という他所には真似できない長野ならではの観光資源を活かす。		197	
198	人が集う	点在する山岳観光地間のインフラを整備し、交通網の充実を図ることで、複数の観光地訪問を促進する。		198	
199	人が集う	拠点と特長の決め出し(観光)宣伝、全国から人を呼ぶ。		199	
200	人が集う	おもてなし「善光寺」、質実剛健「松代」、冬季オリンピック「長野」＝東アジアの森林リゾート「スキー・温泉」誘客プラン		200	
201	人が集う	鬼無里・戸隠は、歴史と緑と小鳥の都として、鬼女紅葉 戸隠神社、岩戸伝説をもとにまちづくりを進める。		201	
202	人が集う	老若男女、宗派を問わず全国から参拝に訪れる善光寺		202	
203	人が集う	門前町として栄えた歴史・文化を最大限活用		203	
204	人が集う	遊休農地を活かした観光農園、体験農園、豆腐や味噌づくり体験等組み合わせた新しい観光のあり方の探求が必要である。		204	
205	人が集う	観光交流人口増加の促進		205	
206	人が集う	交流人口を増やす。		206	
207	人が集う	人口増に取り組む(出生数の増加、社会的人口増、訪問客増)。		207	
208	人が集う	オリンピック開催都市にふさわしい、競技大会、イベント、交流活動などを通じ、世界から人が集まるまちづくりをする。		オリンピック開催都市にふさわしい、競技大会、イベント、交流活動などを通じ、世界から人が集まっている。	208
209	人が集う	人が集まる、元気な街		人が集まる、元気な街になっている。	209
210	人が集う	オリンピック開催地というネームバリューの活用		オリンピック開催都市“NAGANO”の誇りと文化が、世界のモデルになっている。	210
211	人が集う	高級ではなく「上質・良質」で「快適」な滞在を図る。		高級でなくとも「上質で快適」な長野らしさ(長野ブランド)が、人々を惹きつけている。	211
212	人が集う	観光客を市民でもてなす施策	市民みんなにおもてなしの心が育ち、訪れた人にありがとうの気持ちが伝わってくる。	212	
213	人が集う	おもてなしのプロなどによる宿泊施設での接客や対応の改善を図る。		213	
214	人が集う	町並みガイドの育成・活用		214	
215	人が集う	おもてなしの充実…あいさつ運動の展開、長野市美化運動、地域コミュニケーションづくり、お祭りの復興と充実		215	
216	人が集う	「お・も・て・な・し」、「あ・り・が・と・う」のまち	216		



番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
217	人が育つ	基礎教育(義務教育)を大切に、人材育成を推進する。	長野市で活躍する人材を育成するため、特色ある教育に力を入れている。	217
218	人が育つ	4年制大学の設置	大学など、高度教育機関が充実している。	218
219	人が育つ	県立大学の充実により、若者の県外流出を防止する。	長野市で学ぼうとする若者が大勢いる。	219
220	人が育つ	市内に私立小学校、中学校が増えている。		220
221	人が育つ	市立高校が市立ならではの特色ある教育を始めている。		221
222	人が育つ	市立高校の存在感が増している。		222
223	人が育つ	「新ながの人」創造プラン＝新4年制県立大学、高度おもてなし人教育学科		223
224	人が育つ	大学が地域社会に貢献している。		224
225	人が育つ	市内の大学と包括連携協定を締結し、連携事業に取り組んでいる。		225
226	人が育つ	大学等の知的資源が地域で活用されている。		226
227	人が育つ	挑戦する人材が長野市で育っている。	挑戦する人材が長野市で育っている。	227
228	人が育つ	長野に縁のない人たちに人生の節目、転機で長野へ留学してもらおう。	長野留学が流行っている。	228

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号
229	企業が育つ	若者が生き甲斐をもって働ける場所を作る。	誰もが働きやすい環境になっている。	229
230	企業が育つ	I・Uターン者を支援する。		230
231	企業が育つ	「長野は好きだけど仕事がない」…そんな若者のために、I・Uターン者への就職斡旋や補助金支給を行う。		231
232	企業が育つ	若い現役世代は右肩上がりの給与体系ではなくなっている。		232
233	企業が育つ	元気高齢者が生きがいとして社会参加(雇用、ボランティア等)できる場の創出	元気な高齢者が社会の様々な場所で活躍している。	233
234	企業が育つ	リタイア層の活力を地域で活かすために、生きがい就労を創設する。		234
235	企業が育つ	高齢者が生涯現役で活躍している。		235
236	企業が育つ	高齢者は生きがいフィールドで交流し、第二の人生を楽しんでいる。		236
237	企業が育つ	高齢者が就労することで、心身の健康を保持するとともに、医療費が削減されている。		237
238	企業が育つ	雇用の場の提供により、UターンやIターンを増加させる。	長野市で働きたいと思う人が増え、雇用の場が確保されている。	238
239	企業が育つ	雇用を増やし生産年齢者(子育て世代)の住みたくなるまちにする。		239
240	企業が育つ	大型商業施設の進出により、雇用が創出され、近隣県からも誘客している。		240
241	企業が育つ	企業誘致で雇用の拡大		241
242	企業が育つ	自然エネルギー等地域の特性をいかした新しい産業の育成	地域の特性を活かした産業が育ち、新たな雇用が生まれている。	242
243	企業が育つ	最も有効な施策は中山間地域に潜在する自然エネルギーの利活用とそれにとまなう仕事起こしである。		243
244	企業が育つ	小水力and/or太陽光発電施設の普及・設置に必要な仕事を起こし、雇用機会をつくる。		244
245	企業が育つ	成長産業をバックアップする。		245
246	企業が育つ	農産物や森林資源を活かした地場産業を中山間地でも市街地でも育成する。	農産物や森林資源を活かした長野ならではの産業が地域の柱になっている。	246
247	企業が育つ	農業と山林資源を活かした地域産業を育成する。		247
248	企業が育つ	山村に食品加工センターや薪炭の製造施設を用意し、山村に雇用の場をつくり、農産物等の増産や農家の収入増にもつなげる。		248
249	企業が育つ	知的産業を集積するために、大学や政府、民間企業の研究機関誘致に取り組んでいる。		教育機関や政府、民間企業の研究機関と連携し、知的産業が集積している。
250	企業が育つ	デザイン・印刷産業＝クールジャパン「クールながの」→産業再生、新産業創造、アニメコンテンツ産業育成・集積		250
251	企業が育つ	食糧生産や医療、介護は地域で賄う。	食糧生産や医療、介護、エネルギー(木質燃料、小水力、太陽光など)は地域で賄っている。	251
252	企業が育つ	長野地域は、地域に特色ある農作物を生産する農業基盤としての潜在力を有する。		252
253	企業が育つ	地域内循環型農業が進んでいる。		253
254	企業が育つ	農産物の販路が複雑かつ多岐に渡り、消費者と直結している。		市内で栽培された農作物が消費者に選ばれ、農業生産者の利益につながっている。
255	企業が育つ	農業の充実…長野市から先進的な農業政策の発信		255
256	企業が育つ	農業に取り組もうとしている人が増えている。		256
257	企業が育つ	物とお金が長野市内で循環する経済をつくる。	人・物・金が地域内で循環する環境になっている。	257
258	企業が育つ	あらゆる人間の活動が地域内で循環することを考える。		258
259	企業が育つ	企業誘致		259
260	企業が育つ	企業を育成する。		260
261	企業が育つ	長野の利点を生かして企業(農業含)を呼ぶ。		261
262	企業が育つ	企業に対しては広大な土地がある点もアピールする。		262
263	企業が育つ	実際に移転した企業には何らかの助成金を支給する。		263
264	企業が育つ	若者が働く場をつくるために、法人税を下げることで企業を誘致する。		264
265	企業が育つ	環境にやさしい工場の誘致 誘致条件の緩和		265

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号	
266	まちに賑わいをつくる	100年後のまちの形を変える。	100年後のまちの形を変えることを目標に都市整備が進められている。	266	
267	まちに賑わいをつくる	中心市街地を見直し、郊外に出ていった人たちを呼び戻す。		267	
268	まちに賑わいをつくる	長期的視点のもと都市空間のあり方を見直している。		268	
269	まちに賑わいをつくる	子育て支援や区画整理による住環境の整備等が進められている。		269	
270	まちに賑わいをつくる	先進的で景観重視の「ゆったりとした住空間」を備える住宅地を造成され、定住者が増えている。		270	
271	まちに賑わいをつくる	中山間地域、中心市街地の転換が求められている。		271	
272	まちに賑わいをつくる	これまで、人口減少や経済の縮小は悪といわれてきたが、発想の転換が必要である。		272	
273	まちに賑わいをつくる	これからのまちづくりを考える時、これまでの発想の転換が必要である。		273	
274	まちに賑わいをつくる	善光寺を中心に形成された街だが、今や善光寺では人口増には繋がらない。		274	
275	まちに賑わいをつくる	田園と都市の融合したまち		緑の広がる環境共生型のまちが形成されている。	275
276	まちに賑わいをつくる	田園との共生都市			276
277	まちに賑わいをつくる	滞在したくなるまちを目指し、ユニバーサルデザインを導入する。		ユニバーサルデザインに基づく都市空間が整備されている。	277
278	まちに賑わいをつくる	市内のメインスポットにWi-Fi環境をつくる。			278
279	まちに賑わいをつくる	まちづくりが計画性(独自性、一貫性)をもって進められている。		まちなみに計画性(独自性、一貫性)をもたせ、魅力的で緑豊かな景観を形成している。	279
280	まちに賑わいをつくる	中心市街地を活性化し、都市の拡散化を抑制されている。	280		
281	まちに賑わいをつくる	都市の核、地域の核や生活の核となる駅周辺への居住が促進されている。	281		
282	まちに賑わいをつくる	車を入れさせない大胆なハード整備を行い、歩くまちになっている。	282		
283	まちに賑わいをつくる	中心市街地は善光寺を中心にまちづくりを進める。	283		
284	まちに賑わいをつくる	街並の統一化、門前町の雰囲気づくり	世界に誇る日本一の門前町になっている。		284
285	まちに賑わいをつくる	門前町の良さは駅から善光寺までのみちのりで味わえる工夫をする。			285
286	まちに賑わいをつくる	善光寺を中心としたまちづくりによるコンパクトシティ			286
287	まちに賑わいをつくる	善光寺に集う我らは、ずく出して、安・健・爛			287
288	まちに賑わいをつくる	通り沿いの店舗との協力			288
289	まちに賑わいをつくる	門前町の良さは善光寺の入り口で味わえる。			289
290	まちに賑わいをつくる	篠ノ井は南長野運動公園を中心にまちづくりを進める。		地域の代表的な施設に拠点性を持たせるまちづくりが進められている。	290
291	まちに賑わいをつくる	松代は海津城址、真田邸、大本営跡地など歴史遺産を中心にまちづくりを進める。	291		
292	まちに賑わいをつくる	市内が広域化した分、多極化しつつ集中する。	市内の地区ごとに地域の拠点化が進み、日常生活圏が形成されている。	292	
293	まちに賑わいをつくる	中山間地域に買い物や通院ができる生活拠点がある。		293	
294	まちに賑わいをつくる	都市空間の形成は①土地利用の適正化②拠点化③ネットワーク化により進める。		294	
295	まちに賑わいをつくる	週末や休日には大勢の人が市街地に出ている。		食事や買い物を楽しむ人でまちが賑わっている。	295
296	まちに賑わいをつくる	食事や買い物を楽しめるショッピングモールを整備する。	296		
297	まちに賑わいをつくる	市内に大型ショッピングセンターやアウトレットがある。	297		
298	まちに賑わいをつくる	市内の交通網を整備する。	市内の拠点を結ぶ次世代交通が整備され、市民や観光客が快適に移動している。	298	
299	まちに賑わいをつくる	ネットワーク化を進めるため、階層性(基幹・幹線・支線交通)のある公共交通網を構築されている。		299	
300	まちに賑わいをつくる	道路整備が進んだ一方で、自動車が移動手段の主体となっている。		300	
301	まちに賑わいをつくる	都市の核、地域の核、生活の核を公共交通で結び、車を使わない社会が構築されている。		301	
302	まちに賑わいをつくる	観光拠点を結ぶ交通網を整備する。		302	
303	まちに賑わいをつくる	点在する観光地間のインフラ整備		303	
304	まちに賑わいをつくる	クルマをもたない観光客も中山間地域に足を運びやすい環境を整えることで、観光交流人口の増加を図る。		304	
305	まちに賑わいをつくる	市民や観光客がバスや電車を使って市内を移動している。		305	
306	まちに賑わいをつくる	新そばの時期に行われるそば祭りなどは臨時の交通手段を提供する。		306	
307	まちに賑わいをつくる	松本市との連携を強化していく中で、長野～松本間の鉄道の利便性が良い。		307	
308	まちに賑わいをつくる	新幹線との二次交通を整備し、観光にも活用する。		308	
309	まちに賑わいをつくる	山岳高原にも近いのに、新幹線等を利用することで首都圏にも簡単に足を運ぶことができる。		309	
310	まちに賑わいをつくる	首都への交通も便利である。		310	

番号	視点	意見等	理想のまちのすがた(30年後のまちの様子)	番号	
311	長野市の存在感を示す	ながのシティプロモーション( <a href="http://nagano-citypromotion.com/">http://nagano-citypromotion.com/</a> )」の取組を市民が広く認識してもらう。	市民みんなが長野市を誇らしく思い、その魅力を伝える広報マンとなって、シティプロモーションを推進している。	311	
312	長野市の存在感を示す	シティプロモーションにより、魅力的な都市像を発信し、選ばれるまちになっている。		312	
313	長野市の存在感を示す	首都圏在住者の視点で長野市の魅力をPRすることで、ファンを獲得している。		313	
314	長野市の存在感を示す	シティプロモーションを推進する。		長野市の魅力を伝える仕組みができています。	314
315	長野市の存在感を示す	長野市の魅力発掘事業「シティプロモーション」のPR			315
316	長野市の存在感を示す	ながのシティプロモーション専用ホームページを市をあげてPRする(市内外のメディア活用、ホームページのリンク)。			316
317	長野市の存在感を示す	広域的にメディア等を利用することで生活するにも最適な場所であることを幅広い人々にプロモーションする。			317
318	長野市の存在感を示す	民間企業のマーケティング経験者を採用し、効果的なシティセールスが実施されている。			318
319	長野市の存在感を示す	共働きの子育て世代(DEWKS)を対象にしたシティセールスを展開されている。			319
320	長野市の存在感を示す	自然災害に見舞われることが少ない点、夏場の水不足の被害が少ない点等をアピールする。			320
321	長野市の存在感を示す	定住者を増やし、観光者を増やす手段として、長野市の良さをPRする施設を首都圏に設ける。	長野市の良さを伝える媒体を有効に活用している。		321
322	長野市の存在感を示す	首都圏にアンテナショップの設置			322
323	長野市の存在感を示す	フィルムコミッションの実施により市の知名度と市民の市の愛着心が向上している。			323
324	長野市の存在感を示す	長野市ファンを増やすために、首都圏交流事業が展開されている。		324	
325	長野市の存在感を示す	キャッチフレーズによるイメージ戦略やWEB検索と市PRサイトの連動により、市の魅力がPRされている。		325	
326	長野市の存在感を示す	都内の市民向け講座を招聘し、長野市の地域振興をテーマとした座学や実地活動を展開することで、首都圏の関心を喚起している。		326	
327	長野市の存在感を示す	転勤者、学生、長期滞在者などに、長野市内を案内して、市の魅力を知ってもらう制度をつくる。		327	
328	長野市の存在感を示す	I・Uターンの取組を県外メディア等を活用することで全国に向けて発信する。		328	
329	長野市の存在感を示す	「適度に田舎で適度に都会」な長野の魅力をアピール		「適度に田舎で適度に都会」な長野市の魅力をアピールする。	329
330	長野市の存在感を示す	長野ブランドの価値を認めてくれる人がいる。			330
331	長野市の存在感を示す	山岳高原といった長野ならではの観光資源をより活かすためのプロモーション	331		
332	長野市の存在感を示す	～歴史・文化・自然の魅力あふれる～日本一住んでみたいまち長野	332		
333	長野市の存在感を示す	中山間地に都市圏からの移住者を受け入れる。	長野市の魅力を知っている人たちが永住の地として選んでいる。		333
334	長野市の存在感を示す	観光だけでなく人の魅力をアピール→移住・定住へ(観光客の取り込み)			334
335	長野市の存在感を示す	観光だけでなく、地域ならではの文化や人間味溢れる魅力を感じていただき、Iターンを促す。			335
336	長野市の存在感を示す	観光、健康 出生数を増加させ、定住する人を呼び込む、住みやすい街			336
337	長野市の存在感を示す	地域外からの二地域居住(軽井沢の別荘地イメージ)が進んでいる。			337
338	長野市の存在感を示す	一度、長野に住んだ人に、永住の地として選んでもらう(Nターン)。			338

## 追 記

本提言は、長野市総合計画審議会委員が全国的に進行している人口減少の状況を踏まえ、長野市の推計人口を基に、今後の長野市のまちづくりについて考え、取り組んできた成果です。

審議会において議論を積み重ねてきた中で、委員から以下のような意見があったことから次期総合計画策定時には参考にしてください。

- ・ 市外からみた長野市らしさを取り入れた計画策定
- ・ 幅広い年代による審議会委員の構成
- ・ 多くの委員が参加できるような審議会開催日時の工夫

ここで委員の委嘱期間の満了を迎えることとなりますが、多くの個別分野別の計画がある中で、総合計画という長野市の最上位計画の進捗管理を中心に携わり、貴重な経験を積むことができたことに感謝申し上げます。

今後、総合計画を礎としたまちづくりが堅実に進められ、活気あふれる元気な長野市が実現され、更に発展していくことを期待します。

## 長野市総合計画審議会委員名簿

(50音順、敬称略)

	職 名	氏 名
	大岡地区住民自治協議会会長	市 川 豊 樹
	長野市消防団副団長	猪 俣 正 由
	前長野市PTA連合会総務委員長	内 山 咲 子
	NPO法人まめつてえ鬼無里理事長	大 日 方 聰 夫
	六次産業化法認定者	北 村 典 子
副会長	長野郷土史研究会副会長	小 林 玲 子
	公募委員	酒 井 哲 夫
	公募委員	島 田 浩 美
	社団法人長野青年会議所 信州里山塾 前塾長	高 木 亜 矢 子
	社団法人長野市薬剤師会会長	谷 憲 昭
	信州新町観光協会理事	中 村 久 美 子
会長	信州大学名誉教授	藤 沢 謙 一 郎
	社会福祉法人円福会理事長	藤 本 光 世
	公募委員	宮 下 勇 人
	長野経済研究所調査部長代理兼上席研究員	宮 前 肇

任期:H24. 7. 20~H26. 7. 19 (職名は就任時のもの)

以上15名 (平成26年4月1日現在)